

第16回「議員と語りかい」報告書

環境福祉常任委員会

開催日	平成27年8月21日（金） 午前10時25分 ～ 午後12時00分		
開催場所	福山総合支所別館会議室		
団体名	福山地区民生委員児童委員協議会	参加人員	25人 (男13人：女12人)
出席議員	時任英寛、 宮本明彦、 宮内博、 植山利博、 蔵原勇、 今吉歳晴、 中村満雄、 徳田修和		
役割分担	委員長（時任英寛）副委員長（宮本明彦）記録者（植山利博）		
テーマ及び具体的な内容	地域の福祉について ・地域の諸問題への積極的な支援活動を推進するため、南園の一方通行の道路を救急車が通れるようにできないか。 ・福山から国分方面へのふれあいバスが通っていない。		
感想	・地域の生活基盤整備（道路整備など）への要望が多かった。 ・福山地区の人口減、過疎化への不安を強く感じた。 ・福山地区への企業誘致、地域の活性化等への要望が多かった。		
反省点	環境福祉委員会の所管外の要望や、質問がほとんどだった。		
次回に向けての改善点	意見交換のテーマについて事前に十分に打ち合わせ、参加団体のテーマに対する思いをしっかりと解った上で、議会としての対応の在り方を、明確にして取り組むべきだと感じた。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

◆上之茶屋の集落は、9世帯17人、南園の一方通行の道路を拡幅し、整備をしてほしい。

◇産業建設委員会に要望を繋ぐ。

◆福山地区から、国分市街地、医師会病院等へ直接行ける新たな公共交通システムの整備をしてほしい。大型バスは、乗降口の段差が高く、高齢者の乗り降りが大変だ。また、乗客も少ないので、小型バスの運行をすべきだ。

◇議会も地方創生関連の特別委員会を設置し、その中で、霧島市内全域をネットワークできる新たな公共交通システムの構築を提言している。また、平成27年度予算において新規事業として、霧島市地域公共交通網形成計画策定事業15,372千円を計上し、コミュニティバス等の運行形態の改善を行うこ

とを目的に、地域公共交通の活性化及び再生のために市、市民、運行事業者等で協議をしている。

◆地方創生を活用し、霧島市に何か特区を申請する構想はないか。

◇地方創生総合戦略調査特別委員会を設置し、113項目に及ぶ政策提言をしている。今後、何らかの特区の構想が現実化する可能性はあるのではないか。

◆桜島のレベル4に対しての福山の畜産農家の家畜などの避難計画などを含む対応、対策はできないか。

◇持ち帰り、執行部に声を届ける。

◆周辺部における高齢化率の抑制策はないか。周辺部、限界集落等に、働く場所の確保、企業誘致などはできないか。

◇移住定住対策は、一定の効果をみせつつある。周辺部や限界集落への働く場の確保や、企業誘致は大変困難な課題だ。

◆樗木段団地は空き家が多く、防災対策上問題が多い。適正な対応をしてほしい。

◇霧島市公共施設管理計画や公営住宅等長寿命化計画等に基づき、適正な対応を執行部につなぐ。